

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 小浜市立内外海小学校  
 種別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫教育  
        中学校                     中高一貫教育     高等学校  
        教員養成                     技術/職業教育  
        特別支援学校                 その他（                    ）  
 所在地 〒917-0106  
            福井県小浜市阿納尻45-9  
 E-mail [uchitomi@edu.city.obama.fukui.ne.jp](mailto:uchitomi@edu.city.obama.fukui.ne.jp)  
 Website <http://edu.city.obama.fukui.jp/uchitomi/>  
 児童生徒数 男子 36名        女子 38名        合計 74名  
                     児童・生徒の年齢6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（                    ）

### 3. 活動内容

#### (1) 1年間の主な活動内容

今年度も、児童とともに年間活動を考え、全学年でESDカレンダーを作成し、ふるさと教育やキャリア教育、各教科等と関連付けながら実践に取り組んできた。ここでは特に、小浜市特産の「鯖」をテーマとした海に関する活動を6年生が、地域防災や地域活性化に関する活動を5年生が実践してきたことについて報告する。

#### <活動テーマ>

6年：「内外海の素晴らしい伝統を継承し、未来への志を持つ」

5年：「みんなの暮らしを守り隊2 内外海活性化プロジェクト」

#### <テーマ設定の理由>

本校児童は、日々海の恩恵を受けて生活している児童が多い。また、自然の素晴らしさやその恵みを題材にしてふるさと学習を展開していることで、児童は、それらを内外海の誇りと感じている。内外海地区の活性化は、漁業や観光業など海を中心に考える必要がある。学習の中心となる「自然とのつながり」と同時に、様々な文化や歴史のある地域性から「社会とのつながり」も大切にしている。また、防災という視点から「人とのつながり」も関連させ、この地域の一員として自分たちに何ができるのかを考えて、実行していくために本テーマを設定した。

#### <活動内容>

##### ① 5年生防災学習の取組

##### ○防災マップとAEDマップの作成

5年生は、昨年度自分たちの住んでいる地域を中心に防災マップ作りを行った。今年度は、昨年度できなかった他の地域のマップ作りにも取り組み、校区14地区すべてのマップを完成させた。実際に現地へ赴き、崖くずれや水害の危険性、避難所までの時間や距離などを調べた。また、本地区は原子力発電所からの距離も近く、原子力災害時の対策についても調べた。さらに、救急車の到着までの時間や鳥獣被害など、幅広く安全がわかるマップ作りに挑んだ。

##### ○まちづくり討論会への参加

まちづくり協議会の方や各地区の区長が集まる討論会へ参加し、活性化案とともに、安心安全のまちづくりについての提案を行った。AEDの設置数や救急車の到着までの時間を調べたことを発信した。

##### ○成果

2月に行った学習発表会で、1年間の活動報告を行った。他の学年や地域の方に、活性化につながるまちづくり案とともに、安心安全なまちづくり案を発表した。



まちづくり討論会での5年生の提案を受け、協議会が具体的に動き、小浜市へ働きかけてくださった。小浜市長の代理としてまちづくり協議会代表からAEDの目録の贈呈が行われた。

児童は、自分たちの発信により、大人が動き、地域がよりよくなるという実感を得ることができ、今後の活動への意欲が高めることができた。また、これまで以上に、ふるさとを大切に思い、守ってきたいという気持ちを持つことができた。



## ② 6年生地域学習の取組

### ○鯖のなれずし作り

6年生はまず「人とのつながり」と「社会とのつながり」の面で、なれずし作りに取り組んだ。食の世界遺産に認定された田烏区に伝わる鯖のなれずし作りを田烏の森下氏に教わった。森下氏の伝統を後世に残したいという熱い思いに感銘を受け、積極的になれずし作りに取り組んだ。初めて鯖を捌く児童がほとんどであったが、丁寧な指導のもと、手際良く作業できるようになった。伝統を守るために、もっとPRして広めたいという気持ちをもつことができた。



また、県立大学の教授に、発酵食品について講義していただいた。へしこやなれずしの効能や、なぜ内外海地区で作られるようになったのかという背景を学習することができた。伝統的な作業だけでなく、科学的な視点からも、なれずしの良さや地域の素晴らしさに気づくことができた。

### ○内外海と京のつながりを学ぶ鯖街道踏破

昨年度、日本遺産認定第1号に選ばれた鯖街道の素晴らしさを実感するために、鯖街道を実際に歩く活動を行った。事前学習として、一番よく利用されていた若狭街道のある熊川宿へ行き、鯖街道について調べた。その後、行程を3回に分け、第1弾は、学校から鯖街道起点のあるいづみ町、そして京都までの最短距離である針畑峠への道に至る上根来地区まで自転車と徒歩で挑んだ。第2弾は、上根来から京都久多まで約27km、第3弾は、久多から京都鞍馬街道までの約17kmを徒歩で、最後は鯖街道終点の出町柳榊形商店街までバスで移動し、商店街の方に出迎えてもらった。第3弾では、自分たちで作ったなれずしを交代で運び、先人の苦労や知恵を実感を伴って理解することができた。





### ○鯖の養殖の見学

小浜市では「鯖復活プロジェクト」と題して、マサバの養殖を田島区で開始した。鯖の漁獲量が減っていることを学習した6年生は、なれずしなどの文化を残すためにも養殖の大切さを感じ、どのように行っているのかを見学させてもらうことにした。

養殖筏まで船で移動し、鯖の大きさによって筏を変えていることや、餌の大きさを変えて与えていることを学んだ。漁師の方から、鯖は弱い魚で養殖が難しいことや、天然のえさが寄生虫のもとであり、養殖だと生で食べることができるようになるというお話を聞き、これまで学習したフグの養殖との違いに気づくことができた。



### ○鯖サミットでの発信

鯖街道踏破やなれずし作りを通して学んだことを、小浜市食文化館を会場に開かれた「鯖サミット in 若狭おばま」にて発表した。鯖街道の地図を大きくまとめ、景観の良い所や大変なところなど、実際に歩いたからこそできる発表をすることができた。また、なれずし作りの行程をまとめ、教えていただいた美味しさの秘密を発表した。発表後には、来場者になれずしを振る舞い、地域の特産品としてPRすることができた。



### ○成果

地域の歴史ある文化を学ぶことで、地域に誇りを持ち、未来への展望を持つことができた。また、様々な活動を通して多くの方にお世話になり、自分たちの活動を支えてくれている方への感謝の気持ちを今まで以上に意識できるようになった。人前で話すことが苦手だった児童が多かったが、大きな声で堂々と発信することができるようになった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）